

# 厳寒の地で考えたこと



## 【すたんどばいみーのモビリア子ども支援】

※今回は、チューブサランさん（すたんどばいみースタッフ）からの報告です。

2月4日、5日すたんどばいみーによるモビリア子ども支援が行われました。モビリアの仮設は1月に行った時よりも雪が降り積もり、朝方はマイナス5度と気温は氷点下まで下がり、東北の寒さを肌で感じました。仮設住宅の集会所に到着し、いつものように一軒一軒の子どもたちを迎えに行きます。いつもばいみーの活動に参加している小学校2年生の男の子と5歳の妹が暮らす家に最初に行き、それからかれらの案内でほかの子どもを誘いに行くのですが、どうやら、家族でスキー旅行に出かけており、次の日まで戻らないと留守番をしていたおじいちゃんが言いました。その後、ばいみースタッフは次々とドアをノックしますが、午前中は地区の子ども会のイベントである歓送迎会への参加や、有名なスキー選手とのスキー体験をするなどと、子どもたちが家を留守にすることが多く、結局、いつもよりも子どもが集まらない午前の活動となってしまいました。ばいみーの活動に参加する子どもの人数が少ないのは少しだけ寂しいですが、地区の子ども会に参加していることを聞くと、なんだかうれしくもありました。

小学生の少ない午前の学習時間では、中学生と落ち着いて話せる時間になりました。学習の合間、学校のクラスの様子を聞いたり、またその話の間に、今不登校になっている友達を学校に誘おうと、あの手この手と使って話してみたりする様子もありました。しかし、その話になると、その相手の子（不登校）は、返答に困りキョトンとします。周りで話を聞いている私たちばいみーからは、「伝えようとするのが伝わっていないのか、伝わっているけど、どのように返答したらいいのかわからないでいるのかもしれない、あるいは、そもそもすれちがった会話をしてくれている関係にあるのではないのか」等など考えました。これらの予想も、活動後の反省会にてスタッフの情報を合わせた結果、「ふたりのすれ違い」があるのではないかという結論になり、この関係と、どう向き合っていくべきかが次の課題になりました。

午後になると参加の少なかった低学年の小学生も、次々と集まってきました。今回も定番の調理（かぼちゃ団子作り）をするのですが、途中で雪が降ってきたので、子どももスタッフも早く外に出て、雪合戦をしたい気持ちでそわそわはじめ、いつもより落ち着かない様子でした。雪合戦をしている間、仮設で暮らしているおばあちゃんたちのグループが散歩して私たちの遊んでいる姿に「あらま〜、あら、あら〜」と子どもたちの笑い声を微笑ましく思っているような一場面もありました。全力で雪と遊んでいる姿は、どこかつかしきを感じました。子どもたちから「少し丘がある所に行ってそこからすべってみようよ！」と次々と雪で遊ぶアイデアが出てきます。

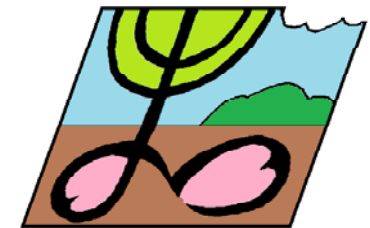


【雪にダイブ!!】

一方、中学生の神奈川への招待は、スタッフの日程調整がうまくいかず、延期することになりましたが、そのかわりに岩手県内の温泉旅行や観光を企画することになりました。遠くの神奈川に行けなくなり、がっかりした様子でしたが、「岩手県内でも行ったことがないところなら」ということで、中学生に許してもらえました。次回は、かれらとの旅行の様子を報告をしたいと思います。

## 【教育支援チーム「まつ」の活動】

地元に着立した教育支援チーム「まつ」も、少しずつ形を整えてきております。まず、地元の先生にお願いされていたロゴが出来上がってきました。「まつ」の文字が曲線で描かれ、自然の中を自転車で走るような姿が映し出されているレイアウトに、打ち合わせの場でも「あたたかい感じがするわね」という声が聞かれておりました。「まつ」の今後の資料には、このロゴが彩りをそえてくれることでしょう。



教育支援チーム「まつ」

続いて1月31日には、教育支援チーム「まつ」主催（後援 Ed.ベンチャー）にて、第1回の学校支援連絡会が行われました。これまで支援物資の提供を通して、関係を深めてきた8校の先生方にお集まりいただき、まず、Ed.ベンチャーの東日本大震災支援の全体を報告させていただき、残り少なくなってきた助成金の配分についてご検討いただきました。9月以降、「まつ」を通してEd.ベンチャーが提供した支援額は160万円近くになり、残額30万円前後となりました。相談の結果、各学校一律4万円の配分を決め、3月までを見越して必要物資を検討していただくことになりました。

続いて、学校支援チーム「まつ」の立ち上げの経緯説明が行われました。次年度以降、被災地外での助成金の申請が通り難くなることにより、Ed.ベンチャーとして、これま



でに近い形の支援をすることが難しくなるために、陸前高田に教育支援団体が必要であること、広域人事異動によりこの地を離れてしまうことに対する心配や懸念をお話しされている先生方に対して、集う場を提供したいことを主な柱としてしていることをお伝えしました。それに伴い、学校の先生方に広く会員登録をお願いしたいことをお伝えしました。現在、教育支援チーム「まつ」として申請している助成金は2口あり、これらの審査結果が出た後に第2回学校支援連絡会を開催することも了承されました。

この日の連絡会は18時過ぎから行われましたので、会議後には懇親会も行われました。Ed.ベンチャーからの出席者は3人でしたが、震災後の外部からの支援は、どのように行われたのかを熱心に質問される先生方がおられ、「そういうことだったのか」と何度もうなずかれています。外部にとっては当たり前になっていることも、内部では見えにくくなっていることがあることを知る場ともなりました。また、「支援物資」を介したつながりから始まった関係ではありましたが、支援を継続する中で、このような新たなつながりが結べたことは、新たな成果をまたひとつ積み上げることができたようにも思いました。もちろん、こうしたつながりが、すべての物事を良い方向に進めていくとは限らないとは思いますが、この場を足がかりに一つずつ丁寧に積み重ねていければいいなと思います。

陸前高田は「東北の湘南」と呼ばれるそうで、気候が温暖で、雪もほとんど積もらないということを知っていましたが、「今年は例外」と、どなたかが声を揃えておられました。1月31日の会議の後に関東に戻るために、夜9時過ぎに車を走らせて、陸前高田-気仙沼-一ノ関というルートで東北自動車道まで移動しましたが、氷点下9度、そして、雪が積もった道路は、本当に良く滑り、いつもは1時半程度要するルートに、2時間半もかかって移動しました。震災支援の度に、「瓦礫から東京はどう見えるのか」ということを考えて来ましたが、冬の厳しさに触れ、地方の犠牲の上に成り立ってきた都市の生活をあらためて問い直す機会となりました。

## 教育支援チーム「まつ」会員募集!!

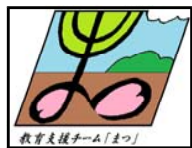
陸前高田市での被災学校と子ども支援を継続的に行うために教育支援チーム「まつ」が立ち上がりました。地元にもともとある「子どもと未来を思う力」を再結集して、復旧と復興にかかる長い時間に向き合い続ける、息の長い活動を展開することを目的としています。会員としてご登録いただき、末永い支援にご協力ください。

※事務所設営中ですので、詳しくはEd.ベンチャー事務所まで

【お知らせ】事務所が広田地区に移動になりました。

お問い合わせの際には、ご注意ください。

陸前高田市広田町字大久保124-1 仮設住宅19-6



## 【支援隊活動記録（陸前高田） 1月23日～2月8日】

### ■陸前高田学校支援

○1月31日（第32回）教育支援チーム「まつ」の学校支援連絡会への参加

□支援隊のメンバー：清水睦美（東京理科大学）、家上幸子（Ed.ベンチャー事務局長）、柿本隆夫（引地台中学校）

○2月4日～5日（第33回）すたんどばいみーのモビリア子ども支援

□支援隊メンバー：チューブサラーン・宮脇英理・伊藤瑞姫（すたんどばいみー）、馬場貴司（玉川大学学生）、グィキムチャイ（会社員）

### ■ご協力いただいたみなさま（敬称略、順不同、物資・寄付を含む）1/23～2/8

日比和子（光丘中学校）、加藤咲江（東京理科大学）、藤田武志（日本女子大学）、手塚文雄、桜井千夏（歯科衛生士）、権田和子、鍛代俊夫（大和市青少年相談員）、大野かよ

教育支援チーム「まつ」の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援（Edベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン）

**NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー**

〒242-0007 大和中央林間3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp



## 2012年度 定期総会 & 教育講演会 開催

### 【定期総会】

日時 2012年2月18日 11時～12時半

場所 大和市渋谷学習センター

2階 多目的ホール

議案 第1号議案

2011年度事業報告・収支決算等

第2号議案

2012年度事業計画・収支予算等

第3号議案 定款の変更等

第4号議案 2012年度役員選任等

### 【教育講演会】＜パンレット参照＞

日時 2012年2月18日 13時半～16時半

場所 同上

講師 土井隆義（筑波大学教授）

